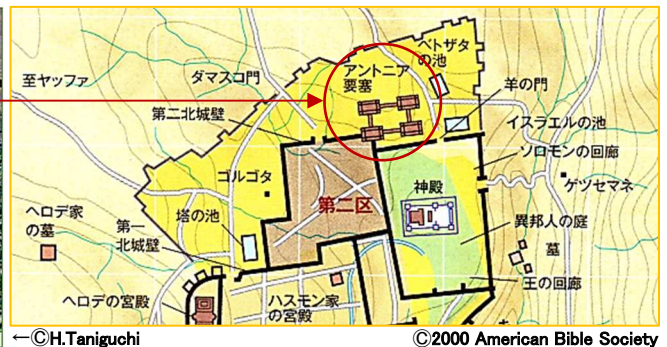


128 群衆への教え(2)

ルカによる福音書 13 : 1~9

▶悔い改めなければ滅びる (ルカによる福音書 13 : 1~5)

01 (前回の箇所続き) ちょうどそのとき、(イエスを見張るように命じられた、律法に精通した) 何人かの (ユダヤ) 人が来て、**ピラト**が**ガリラヤ人の血**を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。→ピラトは、ユダヤを担当していたローマ帝国の第 5 代ユダヤ属州総督 (タキトゥスによれば皇帝属領長官、在任: AD26~36)。ピラトはエルサレムに居る時、神殿を見渡せる**アントニアの要塞**に住んでいた。AD 1 世紀のユダヤ人歴史家ヨセフスは、ピラトがユダヤの神殿や宗教的習慣を軽視する冷酷で残忍な指導者であると記している。しかし、通常、ローマの指導者たちは神殿での礼拝には干渉しなかった。



→ガリラヤ人はイスラエル北部のガリラヤ地方 (右図) に住んでいた人々をいう。イエスもガリラヤのナザレ出身であり、その弟子の大部分もガリラヤ人であった。



→ガリラヤ人の血

この出来事はルカしか記していない。ピラトはゲリジム山の神殿で犠牲をささげていたサマリア人たちに暴行を加え、流血の惨事を起こした (AD35 年) ことがあり、同じようにエルサレム神殿で犠牲をささげていたガリラヤ人たちが襲われたことやローマ総督への反乱に関与したガリラヤ人たちを処刑したことを記している、と思われる。

02 イエスはお答えになった。

「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも**罪深い者**(たち) だったからだと思うのか。」

03 **決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。**

→罪深い者とは、神に敵対し、神の律法に従わない人たちである。当時は、罪深い者の上に悪いことが起きると信じられていた。イエスはすべての人が罪深く、神に立ち帰るべきであると説いている。

04 **また、(シロアムの池の近くにあった) シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。**

05 **決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」**

→シロアム Siloam

「遣わされた者」の意。

→ルカのための記述 (記録)



出典(左図): © 2021 Emory University



©2000 American Bible Society

▶「実のならないいちじくの木」のたとえ（ルカによる福音書 13：6～9）

06 そして、イエスは次のたとえを話された。

「ある人が**ぶどう園**（→神の約束の地カナン）に（実が生ることを期待して）**いちじくの木**（→ユダヤ人）を植えておき、**実**（⇒悔い改めて、イエスを信じたユダヤ人）を探し（⇒取り）に来たが見つからなかった。

07 **そこで**、（神は）**園丁**（えんてい：庭師、手入れをする人⇒イエス）に言った。『もう**三年**（⇒イエスの宣教期間→通常、イチジクは、植え付けてから2～3年で実を付ける）**もの間、このいちじくの木に実**を探しに来ているのに、**見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせて**（⇒占領させて）**おくのか**（聖書協会共同訳：なぜ、土地を無駄にしておくのか。）。』

08 **園丁は答えた**。『**御主人様**（⇒神様）、**今年もこのままにして**（猶予して）**おいてください**。（通常、いちじくの木は、肥料をやらなくても実を付けるのですが）**木の周りを掘って、肥やしをやってみます**（⇒イエスは私たちのために死に、私たちが悔い改めて実を結ぶように導かれる）。

09 **そうすれば、来年は実がなる**（⇒悔い改めて、イエスを信じる）**かもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください**（⇒POINT：神の忍耐にも限界がある）。』

→（リビング・バイブル）06 そして、次のようなたとえを話されました。「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えました。そして、実がなっているかどうか、何度も見に行きました。ところが、期待はいつも裏切られてばかりです。07 とうとう主人は怒って、『こんなろくでもない（→陸でもない、碌でもない）木は切り倒してしまいなさい』と番人に命じました。『三年も待ったのに、も実がなったためしがない。もうこれ以上、手をかけることはない。何のために土地をふさいでいるのか。』08 すると番人は、何とか思いとどまらせようと、なだめにかかりました。『ご主人様。もう一年だけお待ちください。念入りに肥料をやってみましょう。09 それで来年実がなれば、もうけものです。だめなら、それから切り倒しても遅くはありません。』

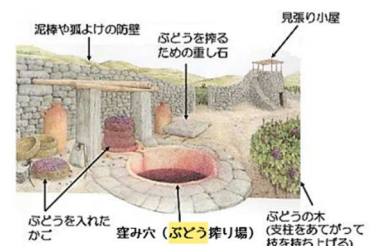


→（回復訳解説要約）ユダヤ人は、神の約束の地、ぶどう園に植えられた、いちじくの木にたとえられています。彼は三年間、求めてきましたが(7節)、何も見いだしませんでした。彼はユダヤ人を切り倒そうとされましたが、園丁としての子なる神は、父なる神が彼らを容認するよう、彼らのために祈られました。そして、御子が彼らのために死に(そのいちじくの木周りの地を掘り)、それに肥料を与えて、彼らが悔い改めて実を結ぶことを望まれました。そうでないと、彼らは切り倒されるでしょう。

【参考】ぶどう畑の詩(イザヤ書 5:1～6)

わたしは歌おう、わたしの愛する者（→父なる神）のために／そのぶどう畑の愛の歌を。

わたしの愛する者は、**肥沃な丘**（→カナン）に／**ぶどう畑**（→イスラエル、神の不実な花嫁エルサレムの都）を持っていた。よく耕して石を除き、**良いぶどう**（の苗）を植えた。その真ん中に（泥棒や動物からぶどうを守るための）**見張りの塔**（→図：見張りの小屋）を立て、**酒ぶね**（→図：窪み穴）を掘り／**良い**（→甘い）ぶどうが実るのを待った。しかし、実ったのは**酸っぱいぶどう**（→私たち）で（全く期待外れで）あった。



さあ、エルサレムに住む人、ユダの人よ／**わたし**（→イエス）と**わたしのぶどう畑の間を裁いてみよ**（→リビング・バイブル：このような訴えがな

された。あなたが裁判官だ）。わたしがぶどう畑のためになすべきことで／何か、しなかったことがまだあるというのか。わたしは**良いぶどうが実るのを待ったのに／なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか**。

さあ、お前たちに告げよう／わたしがこのぶどう畑をどうするか。（ぶどうの木の葉や実を動物から守るために、いばらで作られた）**囲い**（→垣根）を取り払い、焼かれるにまかせ／**石垣を崩し、踏み荒らされるにまかせ**（る。）わたしは**これを見捨てる**。枝は**刈り込まれず／耕されることもなく／茨やおどろ**（→棘／荊棘：とげが多くてちくちくする木質の茎を持った植物、聖書協会共同訳：あざみ）が**生い茂る**であろう。雨を降らせるな、とわたしは雲に命じる。

【参考】悔い改め(メタノイア metanoia)

①悔い改め(メタノイア、ギリシア語)に対応するヘブライ語は、「ニッハム」(=have compassion with)つまり「痛み、苦しみを共感・共有する」ということです。

→完全な方向転換、悔い改める=自分の心を変えることで、救いを獲得するための行いではない。

→悔い改めて、神の前にへりくだった民を、神は神の御心になかなう言動ができるようにしてくださる、と約束しておられます(申命記 30 : 1~10)。

→「悔い改めて福音を信じなさい」と言われた(マルコによる福音書 1 : 15b)。

→わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。

だから、熱心に努めよ。悔い改めよ(黙示録 3 : 19)。

→聖書には、「悔い改め」という言葉が全部で 71 回登場します。旧約聖書には、11 回登場(聖句数 11)し、新約聖書には、60 回(聖句数 56)します。

②蓋世功勞、当不得一個矜字。弥天罪過、当不得一個悔字。(菜根譚 前集 18 項)

→世を蓋(おお)うの功勞も、一個の矜(きょう)の字に当たり得ず。天に弥(わた)るの罪過も、一個の悔(かい)の字に当たり得ず。

→罪は悔改めることによって消える。一時代を圧倒するような大きな功績(手柄)も、それを誇る(=矜)ようでは台無しとなってしまふ。空一面に轟く様な大きな罪も、悔いの一文字に太刀打ちできない(悔いて反省すれば帳消しになる)。自分のした罪を認め、詫び、償い、同じ過ちを繰り返さないためのあらゆる努力をしなければならない。

③人聖人に非ず。誰か過ち無からん。過ち有りと雖も、之を知りて能(よ)く改むれば、即ち過ち無きに帰す(「慎思録(しんしらく)」貝原益軒)。

④過ちて改めざる、是を過ちと謂う(「論語」孔子)。

悔い改め(メタノイア metanoia)



わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ(黙示録 3 : 19)

アイノタメ(愛のため)

【参考】因果応報

過去および前世の行為の善悪に応じて現在の幸・不幸の果報があり、現在の行為に応じて未来の果報が生ずること、人の行いの善悪に応じてその報いも善悪にわかれるということ。

仏教のことばで、「因果」は、因縁(原因)と果報(報い)。ある原因のもとに生じた結果・報いの意。一般には、悪い行いに対する悪い報いの方をいうことが多い。

出典：大慈恩寺三蔵法師伝七

類語：自業自得、善因善果、悪因悪果、三世因果など

⑨聖書には、「罪の刈り取り」という考え方があるが、因果応報ではない。

→ガラテヤの信徒への手紙 6 : 7

思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取るようになるのです。

【一言】桃栗三年柿八年

「桃栗三年柿八年、梅は酸い酸い十三年、梨はゆるゆる十五年、柚子の大馬鹿十八年、蜜柑のまぬけは二十年」。

→「梅」に代わり「枇杷は早くて十三年」、蜜柑に代わり「胡桃の大馬鹿二十年」、「桃栗三年後家一年」もある。

「桃栗三年柿八年、人の命は五十年、夢の浮世にささ(→酒)ので遊べ(「役者評判蚰蜒(げじげじ)」)

「桃栗三年柿八年、枇杷は九年でなり兼ねる、梅は酸い酸い十三年(「譬喩尽(たとへづくし)」)など

参考：「桃栗三年柿八年」吉海 直人(同志社女子大学日本語日本文学科教授)